

令和5年度

名古屋市農業施策等に関する意見書

名古屋市農業委員会

令和5年度名古屋市農業施策等に関する意見書

総論

終わりの見えない新型コロナウイルスの影響に依然として苦しい日々が続く中、国際情勢は過去に類のないほどの緊張を見せている。食の観点から見ても、現在の情勢を強く反映しており、食に関する物価上昇や、長く懸念されているカロリーベースにおける食料自給率は37%と低く推移し、日本の食料供給は諸外国に頼らざるを得ない状況にあるなど国民の不安は高まるばかりである。食料自給率を引き上げ、国民の食に対する安心・安全な生活を守るためには、農家をはじめとした農業振興、農業経営を幅広い視点から考える必要がある。

名古屋市内における農業は、市内南西部における大規模な水田地帯があり、都心部においても特色ある農産物を供給する畑が点在している。

また、災害時においても貴重な防災空間（防災協力農地）になるなど、単なる農産物供給の位置づけを超えて、貢献している。

これらの農地を維持するためには、農家の力が必要となるが、農家の高齢化が進んでおり、農業用施設も老朽化している。このままでは、農地の衰退が進んでいくため、名古屋市農業委員会としては、農家の支援、市民の農業への積極的な関わりを増やしていきたいと考えているところである。

また、名古屋市全体の都市計画における都市農業の位置づけについても十分議論する必要がある。

これらを達成するため、農地等の利用の最適化を効率的かつ効果的に実施するために必要な施策の改善等について、以下のとおり意見を提出する。

1 税制について

- ① 相続税の納税猶予については、利子税が高い、終身営農しなければならないなど条件が厳しいため、農地を手放すこととなり、結果的に農地の減少を招いている。以前のように20年営農を継続することで納税を免除するなど、農業経営の基盤となる農地を安心して後継者に引き継げるようにすること。また、農業用倉庫、農道などの農業用施設についても納税猶予の対象とすること。
- ② 市街化区域内農地の防災や自然環境保全などの多面的機能を評価し、固定資産税について少なくとも小規模宅地並にするなど税の軽減措置を講ずること。

2 生産緑地について

特定生産緑地の制度の内容について農地所有者へ引き続き、十分な周知を図ること

3 農業基盤の維持・整備について

伊勢湾台風以後の基盤整備事業において、整備された用排水路等の老朽化が激しく営農上及び地域の防災面において支障をきたす恐れがある状況となっている。これらの老朽化した施設等に対し、長寿命化のための事業を始めとした土地改良事業や農業用水路の改良及び市街化区域における老朽化した施設への予算の増額を図るよう要望する。また、土地改良区に対する十分な予算措置についても強く要望する。

4 人材育成について

- ① 農業に興味はあるが、どうすればよいか分からない、という「農」に対する潜在的な需要は多数あると考えられる。そこで、親子や高齢者など幅広い年齢層を対象とした農業体験、学校における農業体験、農具を実際に扱ってみる講座など、需要を就農に変えられるような幅広い講座、研修の実施を要望する。
- ② 就農希望者に対しては、市民農園や営農している農業者の下で生産から販売に至るまでの経営のノウハウが学べる研修制度を強化すること。また、栽培技術や農薬安全使用についての市民講座や産地の優れたリーダーを育成する研修を農業センターはじめ市内農業公園で開催すること。さらに、農業経営を行っている農業者に対しては、品種・栽培・販路などの営農指導を県や農協などと協力し、生活できる農業経営への道しるべとなるよう要望する。

5 地産地消の推進について

- ① 地産地消給食講師の小中学校への派遣事業、農業公園や区役所等での高校・大学や企業との連携によるイベントや農業体験等について、なお一層充実した運営を図ること。また、地産地消のイベントの実施にあたっては、市の部局を横断して実施するように努めること。
- ② 市内南西部の港区や中川区では大規模な稲作が行われ、米の生産が盛んである。そこで、学校給食等に米をはじめとする市内農産物を更に活用し、またPRを行うこと。
- ③ 農産物直売所だけでなく、団地や公共施設における簡易な直売手段の普及によって販売チャネルを増やすこと、及び地元農産物の活用による「なごやさい」のブランド化、販路拡大の支援をより一層進めること。

6 遊休農地・荒廃農地の解消について

市内での遊休農地、荒廃農地については、その解消のために多大な労力と費用を要することが多い。そこで、平成30年度まで交付されていた荒廃農地等の解消のための交付金を受けられるよう働きかけること。

令和4年7月11日

名古屋市長
河村 たかし 様

名古屋市農業委員会
会 長 岩 田 公 雄